



島根県を代表して全国へ
あきた鹿角国スポに出場

秋田県鹿角市で開催された「第79回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」に、島根県代表として飯南高校生など6人が出場しました。

アルペン競技少年の部には、和久利昊生さん(3年)と梅木咲季さん(1年)が出場。クロスカントリール競技少年の部には、吉川真太さん(3年)と山戸拓郎さん(3年)が出場し、これまで重ねてきた練習の成果を存分に発揮しました。

クロスカントリール成年の部には、加藤郁海さん(来島公民館)が出場。本町出身の福岡竜ノ介さんがふるさと選手として出場しました。

2月28日には、高校生と加藤さんが来庁し、町長や教育長に結果を報告。和久利さんは「皆さんの支援もあり出場できました。今回の悔しさをバネに、成年の部でも出場できるようにこれからも頑張りたいです」と話していました。



3年連続で出場した吉川さん。力を出し切りました

2.13(木)~16日



それぞれが大会の感想や今後の目標を話しました



社会の形成者を育成するため
青少年育成協議会研修会

来島交流センターで、飯南町青少年育成協議会が主催の研修会が開催されました。

静岡県地域づくりアドバイザーの小田圭介氏が、「何にもしない合宿」による地域づくりの土台づくりをテーマに講演。今後の地域・社会を形成していく子どもたちの成長には、地域住民との普段からの関わりが大切。「体験」ではなく「出会い」を重視した取組を話しました。



お互いの意見を交換する時間もあり、あっと言う間の時間に

2.22(土)



老いとききあう
終活支援講座

町立図書館が主催する「終活支援講座」が初めて開催されました。

今回の講師は、地域包括支援センターの介護支援専門員の宍戸陽子さん。認知症との付き合い方や自らの望む最後に向けての終活の意義を話されました。その後、参加者は、参加理由を共有したり、家族との話し合い方を宍戸さんに質問したりしていました。

参加者からは「今後の人生を考えるきっかけになりました。家族と話合ってみたいです」との声が聞かれました。



メモを取るなど真剣に耳を傾けていました

2.27(木)



地域の安全のために
スノーヘルパー除雪活動

赤名地区の雪かきボランティア「スノーヘルパー」による地域の除雪活動が行われました。

活動には約20人が集まり、赤名連担地内の高齢者宅の玄関先や、歩道を中心に除雪。地域住民が安心して出掛けられるように、除雪機やスコップを使いきれいに除雪していました。

スノーヘルパーは平成30年1月に赤名地区在住の男性で結成し、活動しています。現在は、同地区在住の女性で「レディースヘルパー」も結成し、活動しています。



お揃いの防寒服で出動

2.9日(日)16日



ロボットに教わりながら勉強ができる
学習用AIロボットを試験導入

古河産業株式会社と本町との共同事業として、赤名小学校でAIロボットを活用した実証的な取組が始まりました。

このロボットは、児童の学習意欲の向上や、教員の指導負担の軽減などを目的として試験導入されました。赤名小学校では、特別支援学級に約1カ月間設置され、実際に授業で操作して効果を検証する予定です。

実際に操作した児童は「過去の勉強もできるし、自分からこれをやろうと進んで勉強できると思います」と興味津々の様子でした。



答えだけでなく、問いの考え方や解き方のコツも教えます

2.20(木)



初めてでも楽しく
押し寿司といちご大福づくり

来島交流センターで、来島公民館主催の「ひなまつり行事」が行われました。

飯南町食生活改善推進協議会(食改)の協力のもと、昔から祭りや特別な日のごちそうとして作られてきた押し寿司を作りました。押し型にごはんや具を詰めてぎゅっと押し出したら、玉子や桜でんぶで飾り付け。手のひらサイズのかわいらしい押し寿司が完成しました。

当日の参加者は総勢31人。白玉粉で作るいちご大福も一緒に全員で食事し、にぎやかな会となりました。



食改のお料理名人に教わりながら

3.2(日)



何歳でも楽しめる
飯南ダーツの旅!

赤名農村環境改善センターでNPO法人里山コミッションが主催する「飯南ダーツの旅!」が開催されました。

この企画はダーツで交流を深めることや、少子化で団体スポーツが難しくなる中、個人でも楽しめるスポーツに触れること、高齢者の軽運動にもつなげることが目的。小学生から80代までが参加し、点数を競いながら楽しみました。

企画した同法人のスタッフは「今後、町内でダーツを広めて、交流できる場を作りたいです」と話していました。



真ん中(ブル)にあたると歓声が聞こえます

3.2(日)